

バルク容器明細書

(貯蔵能力が1,000kg以上3,000kg未満のもの)

- 1 液化石油ガス設備工事を行った事業所の名称
- 2 液化石油ガス設備工事に従事した液化石油ガス設備士の氏名等
設備士の氏名：
免状番号：
直近の設備士講習受講年月日
(免状交付を受けてから第1回講習期限に至っておらず、講習を受講していない者にあつては免状交付年月日)
講習受講 免状取得 年 月 日
- 3 設備の所有者又は占有者の氏名又は名称
- 4 設備の所在地
- 5 当該設備の使用目的
- 6 貯蔵設備の貯蔵能力
バルク容器： kg × 基 = kg
- 7 供給設備の技術上の基準に対応する事項
(1) 貯蔵設備
設備距離
最も近い第一種保安物件までの距離
保安物件の名称：
第一種施設距離 実際距離： m (法定：16.97m (障壁設置時：0m))
最も近い第二種保安物件までの距離
保安物件の名称：
第二種施設距離 実際距離： m (法定：11.31m (障壁設置時：0m))
施設距離の不足に対する障壁の必要性 有 無
□ 障壁
有 (構造は以下のとおり) 無
鉄筋コンクリート製 (壁兼用 独立)
高さ m、厚さ cm、直径 mm 鉄筋を縦 cm 横 cm の間隔で配筋
コンクリートブロック製 (壁兼用 独立)
高さ m、厚さ cm、直径 mm 鉄筋を縦 cm 横 cm の間隔で配筋しブ
ック空洞部にコンクリートモルタルを充てん
鋼板製 (壁兼用 扉兼用 独立)
鋼板の厚さ mm、高さ cm、幅 cm
補強 mm × mm の等辺山形鋼を縦 cm 横 cm 間隔に溶接補強
施設距離内に保安物件がある場合の有効な保護状況 (斜角) ~ 別添図のとおり
貯蔵する貯蔵能力が最大の容器の頂部と障壁の頂部を結んだ直線の延長線上に保安物件が係っていない
ことを記載した図面であること。
八 火気取り扱い施設等との距離
火気施設の物件名：
火気施設までの距離： m (法定：5m)
流動防止措置 (漏えいしたLPガスが火気施設に流動することを防止するための措置) の必要性
有 無 火気施設等との距離が5m未満の場合は「有」となる。
┌ 高さ： m (法定：2m以上) の耐火性の壁類を設置
└ 迂回水平距離： m (法定：5m)
二 屋根等
屋根
┌ 屋根組 形鋼 軽量形鋼 その他鋼材 ()
└ 屋根の材料 薄鉄板 石綿スレート その他 ()
遮へい板 厚さ mm (法定：2mm以下) の薄鉄板 その他 ()
ホ 貯蔵設備 (容器等) の設置場所： 屋外 容器置場 (建物) 内
容器置場 (建物) 内の場合の面積 m² (柱、壁の中心線で算出)

(様式7-5)

へ 容器置場（建物）内に設置している場合の滞留しない構造

換気口

床面に接し、かつ、外気に面して設置した換気口を 方向 力所に設置
法定必要換気口面積(A) cm^2 に対し、実際換気口面積(B)は cm^2
・法定換気口面積(A): $\text{cm}^2 = \text{容器置場面積} \text{m}^2 (\text{壁の内寸で算出}) \times 300\text{cm}^2 / \text{m}^2$
・実際換気口面積
開口部面積 : $\text{cm}^2 = \text{縦} \text{cm} \times \text{横} \text{cm} \times \text{カ所}$
鉄筋等断面積 : $\text{cm}^2 = \text{cm} \times \text{cm} \times \text{本} \times \text{カ所}$
実際換気口面積(B): $\text{cm}^2 = \text{cm}^2 - \text{cm}^2 \quad (B) > (A)$

強制換気

吸入口は床面から cm 、放出口は地盤面から m (法定：地盤面から5m以上)の位置に設置
法定通風能力(A) m^3/min に対し、実際通風能力(B)は m^3/min
・法定通風能力(A): $\text{m}^3/\text{min} = \text{容器置場面積} \text{m}^2 (\text{壁の内寸で算出}) \times 0.5\text{m}^3/\text{min}$
・実際通風能力(B): $\text{m}^3/\text{min} \quad (B) > (A)$

ト 安全装置（バルク供給・充てん設備告示の基準に適合）

次の機器を設置しており、全て高圧ガス設備試験合格品又は大臣認定品である。 - 別紙のとおり
カップリング用液流出防止装置を取り付けた液取入バルブ
ガス取出バルブ（ガス放出防止器取り付け 緊急遮断装置取り付け）
液取出バルブ 液取出バルブは未設置

リ ガス放出防止器取り付け
緊急遮断装置取り付け

当該液取出バルブは供給管等に接続していないためガス放出防止器又は緊急遮断装置は取り付けしていない

先端にカップリングを取り付けた均圧バルブ 均圧バルブは未設置
液面計（ガラス管液面計を除く）
過充てん防止装置

上記の機器は、ふた付きプロテクターで保護している

チ プロテクター内に設けるガス漏れ検知器等

検知器の設置

設置： 常時監視システムと接続している 常時監視システムと接続していない

未設置
検知器を常時監視システムと接続していない又は検知器未設置の場合の周囲の状況

バルク容器の外側から幅3m以内かつ対する2方向において1.0m以内に高さ1.5m以上の構築物その他漏えいしたLPガスの拡散をさえぎるものはない（最も近い高さ1.5m以上の構築物等までの距離： m ）

リ バルク容器と調整器の間で液状の液化石油ガスが滞留しにくい措置

措置内容： 単段減圧式調整器をプロテクター内に設置
二段減圧式一体型調整器をバルク貯槽の直近に設置
二段減圧式分離型調整器の一次側調整器をプロテクター内に設置

ヌ 設置方法等

次の方法により設置している

バルク容器の基礎の高さ：地盤面から cm (法定：地盤面から5cm以上)

自動車等車両が接触しない措置： 保護柵を設置 縁石を設置 その他()

安全弁の放出管の設置方法

放出管の開口部の位置、方向：

開口部の雨水侵入防止措置：

安全弁の作動によるLPガスの吹き出しの妨げとならない構造であること。

ル 警戒標

表示位置： バルク容器 その他()

表示内容

・液化石油ガス又はLPガス(朱書)： 力所

・火気厳禁(朱書)： 力所

・緊急連絡先： 力所

・緊急連絡先の表示内容：(名称) (電話番号)

オ 消火器

消火能力：A - B -

設置戸数： 個(法定： 個)

設置場所：

カ バルク容器の腐食防止措置

措置内容：

キ 転落、転倒等防止措置

措置内容：